



F4 JAPAN CHAMPIONSHIP

●12月5-6日 ●鈴鹿サーキット ●晴れ/ドライ ●10周

Pos	No	Class	Driver	Machine	Type	Time/Gap
1	11	A1/1	牧野任祐	KK-ZS	DODIE・制動屋ルーニー・ミスト・JSS	20'30"534
2	2	C/1	阪口晴南	F108	ハートフルスクエア戸田DL	+11"075
3	10	C/2	加藤 智	RK01	FEEL・RK01・TODA	+17"694
4	12	A1/2	太田達也	KK-ZS	佐藤製作所MYST制動屋東名	+20"918
5	82	C/3	栗原正之	RD10W	テクノハヤブサリターンズ	+25"407
6	72	C/4	金井亮志	NATS001	チームNATS・正義 001	+34"195
7	34	C/5	早坂公希	MC090	CMS☆MC090	+34"647
8	14	C/6	根本悠生	F108	GUNZE ZAP F108	+42"039
9	77	A1/3	久保宣夫	KK-A	セレクトジャパン☆MYST-KKA制動屋	+57"927
10	5	A1/4	大岩政裕	KKZS	ポイントワンTMWORKSM2ミスト	+1'05"432
11	3	C/7	今井龍太	RK01	B-MAX・PARABOLEエンドレス	+1'09"096
12	17	C/8	小倉可光	MC090	チームNATS・OAC・090	+1'38"254
13	22	A2/1	池島実紅	WEST006	東京工科大学自動車学校	+1'51"992
14	73	A2/2	近藤敏史	WEST056	K&G RACING C72 近藤電気	+2'03"943
15	21	A2/3	相馬智宏	WEST006	東京工科大学自動車学校	+2'06"622
16	7	A2/4	山岸洋之	WEST056	イーグルスポーツ☆MTN☆056	+2'20"481
以上規定周回数完走						
27	C/-	SYUJI	RK01	B-MAX・RK01・TODA		-4Laps
28	C/-	片山義章	F108	TAIROKU EXCEED		-9Laps
51	A2/-	藤井敬士	956改	フジタ薬局☆モーターテクニカ☆FRD		D.N.S
70	C/-	岡本武之	MC090	ヤマゲン証券☆セノーテキャピタル☆MC		失格

1秒半も離される。驚くべきは牧野がこれに妥協せず、ラストアタックでレコード更新を狙ったこと。セクター1を赤く染めるもデクナーでスピン。「全然止まれる感じじゃなかった(苦笑)。あとコンマ3秒だったのに！」と牧野は心から悔しがらる。3番手は根本が獲得した。鈴鹿クラブマン最終戦との併催で予選に続いてファイナルが10周で争われた。フォーメイションラップでコースアウトした1台をのぞく、19台が一斉にスタートを切る。ここで鋭いタッシュを見せたのは牧野。阪口は続くも、根本が失敗して大きく順位を落とす。予選でのグリッド降格で6番手スタートだった加藤が3番手に浮上し、4番手には栗原がつけ、その後を太田がふたつ順位を上げて続く。加藤を先頭とする三つ巴の3番手争いは、

序盤のハイライトにもなった。2周目、太田が栗原を抜いた後もしばらく接近戦が続く。10番手まで退いていた根本が、3周目には金井を抜いて6番手に浮上。ところが、5周目のデクナーでコースアウトを喫し再び順位を下げてしまった。後続のバトルを尻目に、ファステストラップを連発して逃げていた牧野は、4周目には予選並みの2分2秒台に入っていた。阪口は3番手以下を引き離していたが、牧野に対しては攻め手がなかった。「どれだけついていけるかと思いましたが、全然でした……。クルマを乗り換えてから(ミストKKZS↓ZAP F108)の時間も短かったのであまり詰もられず、悔しいです」と阪口。最後は11秒もの大差をつけ、ジンクスをも打ち崩した牧野は「レース中にレコードの更新も狙っていたんですが、さすがに無理でした。これだけの大差をつけてシーズンを締めくくれたので、満足しています」と語った。3番手争いを制したのは加藤で、若手ふたりと表彰台に立った。A2クラスでは東京工科大学自動車学校からスタッフも含めて女性のみチームで参戦する池島実紅が優勝した。来年から東日本シリーズ6戦、西日本シリーズ7戦、そして日本一決定戦の全14戦に増加するF4にいまから期待がふくらむ。

予選降格で6番手スタートだった加藤だが、冷静なレース展開で表彰台を得た。2牧野には届かなかったが、阪口も若手注目の逸材であるとは間違いない。3F4のミスタージェントルマンとも言える久保は、経験という武器で着実に決勝で順位をあげた。4A2クラスを制したのは女性ドライバー池島。52013年の日本で6位だった栗原は今年も5位フィニッシュ。6金井がまとめてきたNATS学生チームの2015年集大成は6位。7スタートで10番手まで後退、その後の猛追途中にもコースアウトがあり悔しい8位に終わった根本。もしスタートを決めていたら……。

が大本命なのは間違いないが、このレースは過去5年もの間、チャンピオンの勝利を阻んできた。そんな悲しきジンクスを牧野が打ち崩せるかに注目が集まった。

予選で2分3秒台への突入は誰より早かった阪口に対し、牧野はその頃まだ4秒台で走っていた。だが、これは牧野にとって常套手段で、じっくりとタイヤに熱を入れていたのだ。たたき出したタイムは2秒193。同じころ阪口もタイムを縮めたが、3秒702と

序盤のハイライトにもなった。2周目、太田が栗原を抜いた後もしばらく接近戦が続く。10番手まで退いていた根本が、3周目には金井を抜いて6番手に浮上。ところが、5周目のデクナーでコースアウトを喫し再び順位を下げてしまった。後続のバトルを尻目に、ファステストラップを連発して逃げていた牧野は、4周目には予選並みの2分2秒台に入っていた。阪口は3番手以下を引き離していたが、牧野に対しては攻め手がなかった。「どれだけついていけるかと思いましたが、全然でした……。クルマを乗り換えてから(ミストKKZS↓ZAP F108)の時間も短かったのであまり詰もられず、悔しいです」と阪口。最後は11秒もの大差をつけ、ジンクスをも打ち崩した牧野は「レース中にレコードの更新も狙っていたんですが、さすがに無理でした。これだけの大差をつけてシーズンを締めくくれたので、満足しています」と語った。3番手争いを制したのは加藤で、若手ふたりと表彰台に立った。A2クラスでは東京工科大学自動車学校からスタッフも含めて女性のみチームで参戦する池島実紅が優勝した。来年から東日本シリーズ6戦、西日本シリーズ7戦、そして日本一決定戦の全14戦に増加するF4にいまから期待がふくらむ。

今回が10回目となる、F4日本一決定戦。舞台となった鈴鹿サーキットには全国から20台のマシンが集まった。今年、出場した全レースを制して東西一冠を獲得した牧野任祐はもちろん、打倒牧野を掲げてそれぞれのシリーズでライバルとなった根本悠生、今井龍太、スポット参戦組では阪口晴南らが参戦。日本一を決するにふさわしい顔ぶれが集まった。他にもシリーズを戦いこの地元鈴鹿での日本一奪取に闘志を燃やすベテラン加藤智やF4参戦を実現現場として参戦するNATSの講師でもある金井亮志も東シとしてチームを牽引する金井亮志も東シリーズ最終戦の優勝に続き隙あらばと日本一を狙ってきているひとり。そこに、トヨタテクノクラフトの社員メカニックとして構成される「ハヤブサリターンズ」の栗原正之、今年もアルミ車両を大改造したマシンを使い、学生チームで臨んできた東京工科大学自動車学校などが加わる。このカテゴリーの奥深さがある。さらには、アルミクラスで健闘する太田達也、久保宣夫らアルミクラスの参加も全体の半分近く、最新のカーボンマシンから過去に活躍したアルミマシンまで、幅広い年代にわたるマシンが集結した。レースのほうは牧野

牧野、阪口の若手に続き3位表彰台に立ったのはベテラン加藤。今回の出走20台中、満40代以上は8名。F4は彼らジェントルマンが活躍できる場でもある。

年に一度の日本一決定戦も牧野が勝利 打ち破ったジンクス

年に一度の「日本一決定戦」と聞くとピリッとしたムードが漂うイメージだが、このF4だけは少し違う。もちろん頂点をめぐる戦いに火花は散るがそれだけではない目的を持つチーム&ドライバーが多い。それが魅力だ
Text : はた☆なおゆき (Naoyuki Hata) Photo : 佐々木純也 (Junya Sasaki)

